

図工・美術科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

子どもたちが生き生きと表現活動をするための学習指導のあり方
～素材との対話・友との対話を通して～

二 テーマ設定の理由

昨年度は、子どもたちが生き生きと表現活動をするための、新たな題材開発に視点をあてて研究を進めてきた。その上に立って、今年度は、子どもたちの学習活動が、より一層主体的で対話的なものになるために、特に材（素材・教材）と子どもたちの関わりに焦点を当てて研究を深めたいと考え、本テーマとして設定した。

三 研究の経過

第1回委員会	5月2日	(火)	年間活動計画の立案	研究テーマの決定	(会館)
第2回委員会	5月28日	(火)	教育課程に向けて教材研究		(会館)
第3回委員会	6月11日	(火)	教育課程に向けて事前授業の参観		(城下小学校)
第4回委員会	8月1日	(木)	教育課程の午後の活動について打ち合わせ		(サントミュージゼ)
第5回委員会	11月25日	(月)	今年度の反省、次年度について		(会館)

四 研究の内容

1 教育課程研究協議会図工・美術教育会場校（城下小）の研究実践とともに

6月、城下小学校の事前授業に、学習指導委員会として授業参観させていただいた。授業として行われた「おもしろだんボールボックス」では、日頃から切ったり折ったりして工作を楽しむことのできる子ども達だったので、活発な取組の様子が見られた。普段、自信がなくて活動が滞りがちな子どもも安心して活動に取り組んでいるようであった。

9月の教育課程研究協議会本番での授業「表そう自分だけの世界」の実践からは、以下のような点が成果と課題としてあげられた。

- ①透明シートを活用したことで、何度も描き直すことができ、使いやすく、のびのびと発想できたが、配布が一枚だけだったので、シートの枚数を増やすか、クロームブックで撮影して残すこともよかったかもしれない。あるいはシートを使うか、直接書きこむ選択肢があってもよかったかもしれない。
- ②形だけでなく、色に関して教師側からもっと言及があってもよかったと思った。直接クレヨンで描き込む作業を忘れていた児童もいたので、声掛けや板書に工夫があってもよかったと思う。
- ③あるグループで、友だちのつぶやきに共感して興味をもつ姿が見られ、語り合う姿が見られた。さらに、教師が他の児童の見え方を否定せず、肯定的な声掛けが大変印象的だった。日頃の学級経営の素晴らしさが見られた。

2 教育課程研究協議会での実技講習に向けた教材研究

上田市立美術館（サントミュージゼ）の子どもアトリエの学芸員に教えていただきながら、実技講習として、「ロール芯でつくろう！」「紙のライトで照らすと出てくる！楽しい世界」（詳細は以下）を教えていただいた。

(1)「ロール芯でつくろう！」

<材料・道具>

トイレットペーパーやキッチンペーパーなどの紙のロール芯 定規 鉛筆 消しゴム
ハサミ 絵の具セット（筆・パレット・水入れなど） ステープラー
ひもやお菓子の空き箱など（飾るときに使う）

<やり方>

- ① ロール芯の内外に色を塗り、乾かしておく。
 - ② 絵の具が乾いたら、ロール芯をつぶして端から端まで1～2cm幅の線を引いておく。
 - ③ 線に沿ってはさみで切る。
 - ④ ③で切り落としたロール芯の輪を好きな形にする。
 - ⑤ ④で作ったものをステープラーでつなげて、好きなものに仕上げる。
- ※ロール芯の輪は、ハートやクローバーなどの葉っぱ、ダイヤなどの形にしたり、輪を切り鉛筆などで丸めてくせをつけたりして、工夫次第でいろいろな形をつくることのできる。

※壁に吊るしたり、そのまま置物として飾ったり、お菓子箱などをフレームにして飾るなど、工夫次第でいろいろな仕上げ方や飾り方ができる。

※出来上がったものを窓辺に飾ると影でも楽しめる。

(2)「紙のライトで照らすと出てくる！楽しい世界」

<材料・道具>

クリアファイル (A3・透明) 4つ切り画用紙 (黒色) 四つ切り画用紙 (白色)
油性ペン (黒・カラーペン) ハサミ 鉛筆 消しゴム 下書き用の紙 絵の資料

<やり方>

- ① 描きたい絵 (暗闇の世界) を考え、紙に下書きする。
- ② 下書きをもとに、クリアファイルに黒の油性ペンで絵を描き、油性カラーペンで色をつける。
- ③ 白画用紙にライトの絵を描き、はさみでライトの形に切りとる。
- ④ ②のクリアファイルに黒画用紙を入れる。黒画用紙の前面に③のライトを差し込み、照らして遊ぶ。

※透明のクリアファイルを使うので、図鑑や写真、イラストなどを写すことができる。

※絵を描く油性ペンは、失敗してもアルコールで消すことができる。

扱う素材は、日頃から身近なものばかりだが、ありふれた素材でも、いつもとは違った使い方をすることや、使い方の工夫をすることで、新鮮な出会い方ができることが、実感的に理解できる貴重な機会になった。

五 研究のまとめと課題

本年度は、子ども達の学習活動が、より主体的で対話的なものになるために、素材との対話、友との対話に焦点を当てて研究を進めてきた。城下小学校で行われた教育課程研究協議会では、モダンテクニックからできた模様の色や形を生かし、友だちと対話しながら何かに見立てる授業を参観させていただいた。研究会では、透明シートの活用の良さや、他児童の見え方に対し、肯定的な声かけが印象的だったことが出された。また、研究協議Ⅱでは、上田市立美術館の学芸員の指導の下、日々の授業に活用できる造形活動の技法を学ばせていただいた。

課題については以下のことが挙げられたので、次年度に向けて引き継いでいきたい。

<課題>

- 上田市立美術館 (サントミュージゼ) で紹介して頂いたような題材を知ることで、前向きに図工美術の授業に取り組めたり、題材の引き出しが増えたりすることはありがたい。図工美術委員会から先生方に発信できるような取り組みを考えたい。
- C4th などを使って、データベース上で積み重ねた実践・研究・題材などを気軽に見られるシステムが欲しい。